

# 木住協耐震診断プログラム 2012

## 質問・回答集

2021年12月

一般社団法人日本木造住宅産業協会

技術開発部

この質問・回答集は、ユーザーサポートに寄せられました問い合わせと回答をQ&Aという形式で項目ごとにまとめたものです。

## 目次

1. 壁耐力の算定	1
2. 入力操作方法	
<建物仕様（階高、各種係数等）の入力>	4
<外壁線の入力>	6
<耐力壁の入力>	7
<床仕様・屋根仕様の入力>	13
<屋根の入力>	16
<付属架構の入力>	18
<柱脚柱頭接合部・基礎形式の入力>	19
<劣化度の入力>	21
<画面表示>	24
<保存ファイル>	26
<印刷>	27

## 1. 壁耐力の算定

### Q1-1. 入力した無開口壁や有開口壁が壁配置図で表示されないまたは耐力ゼロになる。

A. 下記の原因で壁が無効になっている可能性があります。

原因： 外壁線の外側に壁を入力している

対処： 外壁線の外側に入力している壁は無効となります。

原因： 長さが 600mm 未満である

対処： 長さが 600mm 未満の壁は無効となります。ただし同一仕様で連続して 600mm 以上となる場合は有効とします。

原因： 両端部に柱がない

対処： 両端部に柱がない壁は無効となります。

原因： 壁両端の座標と両端部柱の座標が異なる

対処： 壁の両端部に柱が入力されているように見えても壁両端の座標と両端部柱の座標が少しでも異なると、壁は無効となります。通常、壁の入力時には両端の座標が同じ柱が自動的に入力されます。しかし、壁の入力後に端部柱を削除して再度入力した端部柱は、座標が異なっている可能性があります。そのため、壁端部と柱の座標を各情報パネル上でご確認ください。

原因： 耐力要素と開口部の端部の座標が一致していない

対処： 有開口壁は耐力要素と開口部を同位置で重ねて入力しますが、端部の座標が一致していない場合は無効となります。そのためモジュールから外れている場合は、芯ずれの通りを作成し内壁と開口部の始点と終点を「X2-Y5」「X5-Y5」等のスナップ表示後にクリックして入力してください。

原因： 有開口壁が「耐力を評価できない壁」などの無効な壁に連続している(有効な無開口壁に連続していない)

対処： 「耐力を評価できない壁」などの無効な壁に連続している有開口壁は無効になります。有開口壁の耐力は、少なくとも片側に有効な無開口壁が入力されている場合に評価します

原因： 全面型開口の有開口壁が連続している

対処： 連続する有開口壁は一体とします。そして耐力の異なる有開口壁が連続する場合は、最小の耐力を連続する有耐力壁の耐力とします。そのため耐力ゼロとなる全面型開口に連続する一体の有開口壁の耐力はゼロとなり無効の壁となります。全面型開口以外の部分の有開口壁を有効にする場合は、全面型開口の有開口壁を削除してください。

原因：「耐力を評価できない壁」と開口部を重ねて入力している

対処：「耐力を評価できない壁」の有開口壁は無効となります。

原因： 開口部がある箇所に外壁等の壁が入力されていない(開口部のみを入力している)

対処： 有開口壁の耐力は、開口部分に壁が入力されている場合に算定します。開口部のみの耐力は無効となります。そのため、有開口壁の耐力を算定するためには開口部に重ねるように外壁等を入力してください。

#### **Q1-2. 連続して複数入力した個々の有開口壁が一体となっている。**

A. 連続する有開口壁は一体として耐力を算定します。

#### **Q1-3. 柱のN値計算で取り付く耐力壁の倍率がゼロになっている。**

A. 耐力壁入力時に柱も同時に入力されますが、別々に入力した場合には耐力壁端部と端部柱の座標が一致しないことがあり、その場合は耐力壁が無効となり倍率がゼロとなります。これは通りが芯ずれしている場合に多く起こります。耐力壁の始点終点をクリックして入力する際に、始点終点上で「X3-Y6」等の通り名が表示されてからクリックするとスナップ機能でその座標上に入力することができます。

#### **Q1-4. 開口部分の壁の評価はできますか？**

A. 開口部分の壁は有開口壁として耐力を算定します。

#### **Q1-5. 杉羽目板張（一般財団法人日本建築防災協会『2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法』）に記載されていない耐力壁）を使用したい。**

A. 杉羽目板張を含む一般財団法人日本建築防災協会『2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法』に記載されていない耐力壁は、プログラム既定の壁仕様にはありません。使用する場合には、診断者の判断として耐力を評価しユーザー設定耐力壁を新規作成してください。ユーザー設定耐力壁の新規作成はプログラムマニュアル P.88、89 を参照ください。

#### **Q1-6. 壁構成リストの中の項目で、壁の内容はほとんど同じであっても、基準耐力が異なるものがあるのはなぜですか？**

A. 本プログラムでは、壁構成リストで、「面材 1」「面材 2」「軸組」の中に名称表記が同じでも耐力の違うものがある場合は、別の壁として扱います。そのため、名称が同じで耐力の違うものを用いて入力されていることが原因と考えられます。

#### Q1-7. 耐力壁の軸組に筋かいを追加しても評点が上がらないのはなぜですか？

A. 耐力壁の軸組に筋かいを追加したにも関わらず、評点が上がらないことには下記の原因が考えられます。

- 壁基準耐力は、複数の仕様を併用する場合にそれぞれの値の和とできますが、一般診断法では 10(kN/m)、精密診断法 1 では 14(kN/m)が上限となります。そのため面材仕様で高い耐力の仕様を用いている場合には軸組に筋かいを追加しても、壁としての耐力が上がらず評点も上がらない場合があります。
- 壁耐力を低減する柱接合部低減係数は、接合部仕様が同一の場合、壁耐力が高いほど低減率が大きくなります。そのため軸組に筋かいを追加しても壁耐力と同時に低減率も大きくなり建物の耐力が上がらず評点も上がらない場合があります。

#### Q1-8. 一般診断法より精密診断法 1 の評点が低くなる原因はどのようなことが考えられますか？

A. 本プログラムでは下記の場合に一般診断法より精密診断法 1 の評点が低くなる場合があります。

- 外壁や内壁が多いプラン、または開口部が少ないプラン

本プログラムでは外壁および内壁の荷重を、一般診断法においては床面積当たりの値に均して必要耐力の算定に用いるのに対し、精密診断法 1 においては見付面積と見付面積当たりの単位荷重から重量を算定します。そのため外壁や内壁が多いプランの場合は精密診断法 1 の必要耐力のほうが大きくなり評点が低くなる場合があります。また、精密診断法 1 においては壁と開口部の重量比(壁より開口部のほうが軽いものと仮定)を考慮して外壁や内壁の重量を算定しています。そのため開口部が少ないプランの場合は、壁重量が大きくなるため精密診断法 1 の必要耐力のほうが大きくなり評点が低くなる場合があります。

- 壁部材内部の劣化程度が大きい

壁部材の調査について、一般診断法は目視調査(非破壊)を原則としているのに対し、精密診断法 1 の壁部材の調査では外観調査だけでなく内部の目視調査や触感検査を実施して腐朽、蟻害、虫害等の劣化の有無を判断します。そのため精密診断法 1 では一般診断法の目視調査では分からなかった劣化の影響で壁耐力を低減する場合があります。その劣化の程度によっては建物の保有耐力が低くなり精密診断法 1 の評点のほうが一般診断法より低くなる場合があります。

#### Q1-9. 和室続きの間仕切りが障子と欄間の場合、壁に「全面開口」とした場合と最初から壁無しとした場合では診断結果に差が出るのでしょうか？

A. 全面開口に有開口壁が連続しない場合は、「全面開口」と「壁無し」ともに耐力ゼロと評価するため耐力評価に差はありません。

## 2. 入力操作方法

### <建物仕様（階高、各種係数等）の入力>

#### Q2-1. 一般診断法において形状割増係数を「1.15」としたい。

- A. 形状割増係数を「1.15」とする場合は、「建物仕様入力画面」の「各種係数」において「精算法」を選択し、「1.15倍」を選択してください。なお、形状割増係数を「1.15倍」とする必要耐力の算定方法は簡易法ではなく精算法のみになります。簡易法で形状割増係数を「1.15倍」とすることはできません。

#### Q2-2. 形状割増係数を1.3倍にしたい。

- A. 形状割増係数1.3倍は、精算法の係数であるため、一般診断法の必要耐力算定法の精算法を選択し、「1.3倍」を選択してください。

建物仕様入力画面(一般診断法)

建物概要 | グリッド・高さ | 地盤・地形・基礎 | 各種係数 | 各部の仕様 | 老朽度チェックシート

◆各種係数

地震地域係数Z(必須) 1.0

積雪区分(必須) 一般地域

多雪区域の場合の積雪深(必須) 0 m

軟弱地盤割増(必須) 1

一般診断法の必要耐力算定法(必須)

簡易法  精算法

形状割増係数

二階(必須) 1.0倍(短辺6m以上)

1.0倍(短辺6m以上)

1.15倍(短辺4m以上6m未満)

1.3倍(短辺4m未満)

#### Q2-3. 形状割増係数を階ごとに設定したい。

- A. 形状割増係数は、階ごとに値を設定することはできません。

#### Q2-4. 各種係数の項目で軟弱地盤割増係数の値を教えてください。

- A. 一般財団法人日本建築防災協会『2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法』P.26で軟弱地盤割増係数は1.5倍とされています。

**Q2-5. 精密診断法 1 における 2 階建ての建物の「2 階階高」に入力する値を教えてください。**

- A. 2 階建ての建物の場合の「2 階階高」は、2 階の壁重量算定に用いるため「2FL～軒高」までの高さを入力してください。

**Q2-6. 精密診断法 1 における平屋の「1 階階高」に入力する値を教えてください。**

- A. 平屋の「1 階階高」は軒高から 1 階床高を減じた値としてください。

**Q2-7. 積載荷重を変更したい。**

- A. 積載荷重は精密診断法 1 で下記の手順で変更することができます。

手順 1：建物仕様入力画面の「建物概要」-「建物重量」で「その他」を選択し「建物部位入力画面へ」をクリックする。

手順 2：建物部位入力画面の「オプション」-「診断オプション」をクリックする。

手順 3：「積載荷重」の値を変更し「OK」をクリックする。

**Q2-8. 精密診断法 1 において建物仕様入力画面の「建物部位入力画面へ」をクリックしても建物部位入力画面が表示されない。**

- A. 階高の入力値が 2.4m 未満または 3.4m 超であるために注意喚起画面を表示していることが考えられます。注意喚起画面を前面にして閉じ、階高を本プログラムの適用範囲である 2.4m 以上 3.4m 以下としてください。

**Q2-9. 入力途中でモジュールを変更しても建物の寸法が変化しない。**

- A. 入力要素の寸法は、入力時のモジュールによる寸法に固定されます。入力要素の寸法を変える場合は、モジュール設定を変更後に再度の入力が必要です。

**Q2-10. 必要耐力の算定方法を変更したいときの操作方法を教えてください。**

- A. 一般診断法における必要耐力の算定方法は、建物仕様入力画面の「各種係数—一般診断法の必要耐力算定法」において「簡易法」「精算法」から選択することによって設定することができます。なお、精密診断法 1 においては自動的に基準法に準じて求める方法のみを用います。詳細はプログラムマニュアル P. 32 及び P. 116 を参照ください。

## ＜外壁線の入力＞

### Q2-11. 耐力要素は外壁線で囲うように入力する必要がありますか？

- A. 耐力要素は外壁線外に入力されているものを耐力ゼロと評価しますので、有効な全ての耐力壁を囲うように外壁線を入力してください。

### Q2-12. 壁付きの玄関ポーチがある場合の外壁線の入力方法を教えてください。

- A. 玄関ポーチの外郭線を全て含むように「外壁線」を入力してください。

### Q2-13. ピロティがある場合の外壁線の入力方法を教えてください。

- A. 本プログラムでは外壁線の外側に入力している壁は無効となります。そのため建物の外になるピロティ先端等がある場合は、ピロティ周りの耐力要素の耐力評価の点から外壁線で囲うように入力してください。

### Q2-13. オーバーハングがある場合の外壁線の入力方法を教えてください。

- A. 必要耐力算定用の床面積は、各階に入力された外壁線の入力範囲の面積としています。そのため、オーバーハングによる上階張り出し部分の面積を1階の領域毎の必要耐力算定用の床面積に加えるために、張り出し部分を囲うように下階の外壁線を入力してください。

### Q2-14. 床など外壁線以外の部位を入力中に外壁線を選択できない。

- A. 表示オプションの外壁線をクリックすることで、外壁線のみを選択できるようにすることができます。外壁線以外の入力中は、建物部位が重なり外壁線を選択することが難しいためこの方法で外壁線を選択してください。

表示オプションが表示されていない場合は、建物部位入力画面上部の「表示」の中の「表示オプション」をクリックすることで表示することができます。

### Q2-15. 外壁線の頂点の芯ずれ移動の方法を教えてください。

- A. 外壁線の頂点は情報パネルにおいて座標を入力することで移動することができます。移動が適用されない場合は、情報パネルの座標入力欄をクリックしてから入力エリアをクリックすることで適用できます。また、本プログラムではグリッドだけでなく通り芯にもスナップ機能があるため通り芯を移動することで外壁線を芯ずれで入力することができます。通り芯の移動については、プログラムマニュアルP. 57の説明を参照ください。

## ＜耐力壁の入力＞

### Q2-16. 室内壁に外壁仕様を入力してもよいでしょうか。

- A. 室内側に外壁仕様を入力することは可能で、診断に影響ありません。プログラムは室外側と室内側の耐力要素の耐力を合算して壁の耐力とするため、室外側と室内側どちら側に入力しても壁の耐力は変わりません。

### Q2-17. 壁の仕様の選択リストに仕様が表示されない。

- A. 壁の選択リストは、一般診断法と精密診断法1によって、使用できる既定の仕様として内蔵しているものとユーザーが追加しなければならないものがあります。既定の仕様は表示され、それ以外はユーザーが定義しなければ表示されません。
- なお、診断仕様選択画面で「精密診断法1」かつ「補強後」を選択している場合には「診断専用の壁」を壁選択欄に表示せず入力することができないようになっています。

### Q2-18. 建物部位入力画面に進もうとすると、精密診断で確認できない部位がありますと一覧表がポップアップされる。

- A. 精密診断法1においては「不明な壁」を診断できないようになっているため不明な面材や不明な筋かいを入力している既存物件データを読み込んだ場合に注意喚起画面が発生します。その場合は調査結果を基に不明な面材や筋かいを削除するか、または評価可能な壁に変更してください。

### Q2-19. 補強後の診断で診断専用の壁を使いたい。

- A. 補強後の診断で診断専用の壁を入力するには、診断仕様入力画面で「補強前」を選択し補強前の診断として入力後、「補強後」を選択してください。

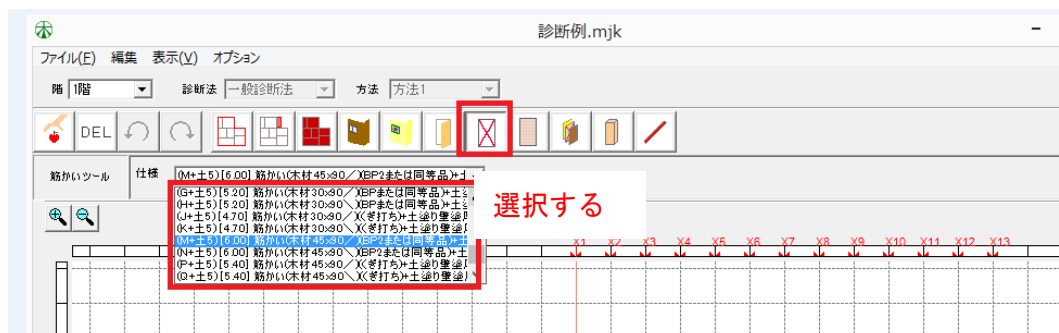
### Q2-20. 診断専用の外壁の横張サイディングを入力する方法を教えてください。

- A. 外壁の横張サイディングにつきましては、診断仕様入力画面で「補強前」を選択することにより、リストで選択し入力することができるようになります。また、当該仕様は診断のみの仕様であるため「補強後」選択後、補強のために新たに入力することはできません。



## Q2-21. 土塗り壁と筋かいを同時入力する方法を教えてください。

- A. 下図のように筋かいツールの仕様の中に土塗り壁と筋かいの耐力を合わせた仕様がありますので、選択して入力してください。入力の表示上は筋かいと同じものになります。



## Q2-22. 一般財団法人日本建築防災協会『2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法』に記載の無い耐力要素を入力する方法を教えてください。

- A. 新規に壁仕様を作成することで入力することができます。耐力壁の新規作成はプログラムマニュアル P. 88、89 を参照ください。

## Q2-23. 筋かい+構造用合板 9mm の耐力壁を入力する方法を教えてください。

- A. 筋かいと構造用合板張りを別々に入力するか、もしくは複合耐力壁を新規に作成し入力してください。構造用合板張りの場合（一般診断法）は、外壁の構造用合板張り 5.2kN/m、3.1kN/m または内壁の合板張り 0.9kN/m から選択できます。外壁・内壁の違いは計算には影響ありません。ユーザー定義で新規に作成して入力することも可能です。

## Q2-24. ユーザー定義の壁仕様の耐力、剛性、倍率、釘、釘径について。

- A. 一般診断法の場合は耐力を、精密診断法 1 の場合は耐力と剛性を設定すれば計算を行うことができます。倍率については参考値として N 値計算を計算する際に使います。釘、釘径は計算に影響ありません。

## Q2-25. 建物部位入力中にエラーメッセージが発生する。

- A. 垂れ壁が筋かいに重ねて入力されていることで、プログラムに対処できない状態が発生している可能性があります。この場合は垂れ壁を無開口壁に変更すると、エラーを回避することができます。

## Q1-26. 斜め壁を入力したい。

- A. 斜め壁は「斜め壁ツールボタン」を選択した状態で外壁等を入力することで入力することができます。付属資料「(D) 斜め壁の入力方法」を参照ください。

**Q2-27. 耐震パネル大臣認定品の基準耐力や剛性について。**

- A. 既定仕様以外の耐力壁の基準耐力や剛性の値については、診断者判断で決定してください。  
壁仕様の新規作成方法は、プログラムマニュアルP. 88-89 「(7) 建物部位の仕様の新規作成」  
をご確認ください。

**Q2-28. 補強後工事で増築して増築部分に耐力壁を設置する場合のプログラム適用の考え方を教えて下さい。**

- A. 建築基準法施行令第 137 条の 2 の規定に基づくようにしてください。基準法の規定が除外される部分である場合で、かつ補強した既存部分と相互に力のやり取りがある増築とする場合には、増築部分を含めた建物全体として診断法の適用範囲内であることを確認した上で増築部分に耐力壁を入力して診断してください。

**Q2-29. ユーザー定義の内壁を用いて複合耐力壁を作成して再起動後、編集するとエラーメッセージが発生する。**

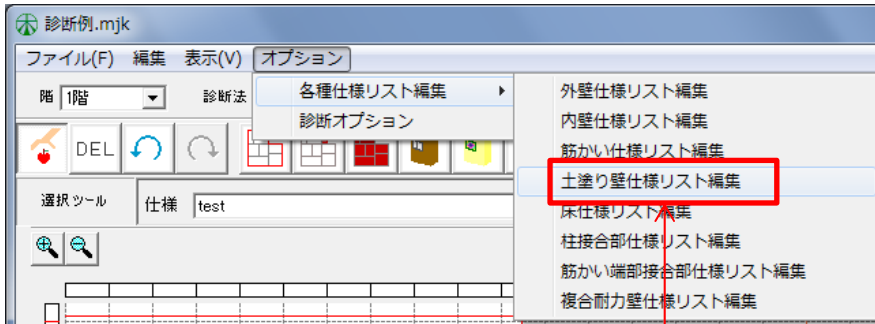
- A. プログラムをアンインストールして再度インストールをお願いします。インストール後、ユーザー定義の壁を用いて複合耐力壁を作成する場合は、ユーザー定義の壁を作成する際に「一般精密」を選択することで複合耐力壁を作成することができます。

The image shows a dialog box titled "内壁仕様" (Interior Wall Specification). It contains the following fields and options:

- 色 記号: A color selection box with a black swatch and an empty text field.
- 名称: An empty text input field.
- 耐力 剛性 倍率: Three numerical input fields, all containing "0.00".
- 釘 釘径 釘ピッチ: Three numerical input fields, with "釘径" and "釘ピッチ" containing "0.00".
- 診断専用: An unchecked checkbox.
- Radio buttons: Three radio buttons labeled "一般", "精密", and "一般精密". The "一般精密" button is selected and highlighted with a red rectangular box.
- Buttons: "OK" and "Cancel" buttons at the bottom.

**Q2-30. 一般診断法における複合耐力壁の仕様編集画面で、名称が同じ土塗り壁が異なる仕様になる。**

A. 以下のように「仕様リスト編集」で壁仕様を新規作成し、その壁を用いて複合耐力壁を作成することで該当の仕様を使うことができます。



手順 1 : 「土塗り壁仕様リスト編集」をクリックする。



手順 2 : 仕様リスト編集画面で「新規」をクリックする。

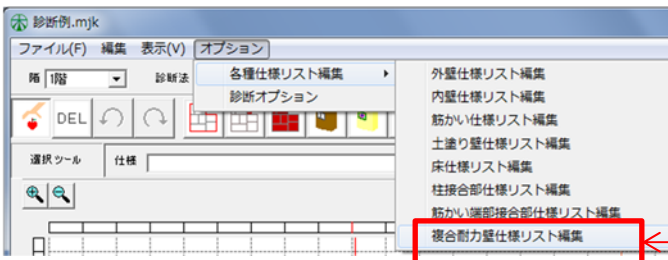


手順 4 : 名称等を入力する。一般診断法では耐力のみを評点の計算に用いるため必ず入力する。また、手順 3 で「一般精密」を選択しているため、剛性に仮の値を入力する。(一般診断法では剛性の値は計算に影響しません)

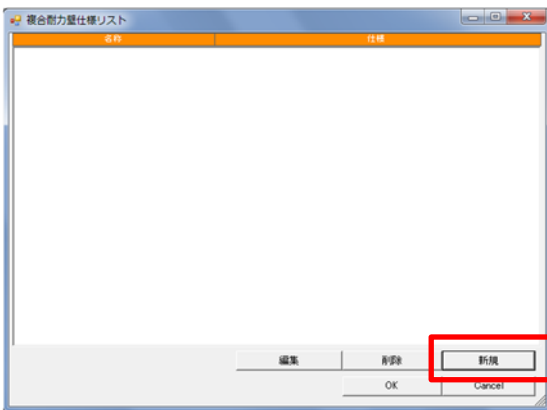
手順 3 : 「一般精密」を選択する。



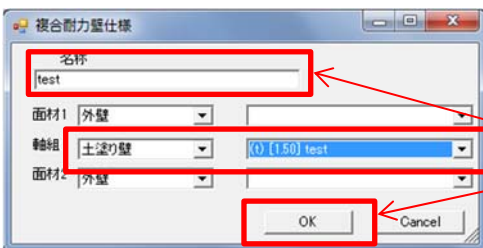
手順 5 : 新規作成がリストに追加されたことを確認して「OK」をクリックする。



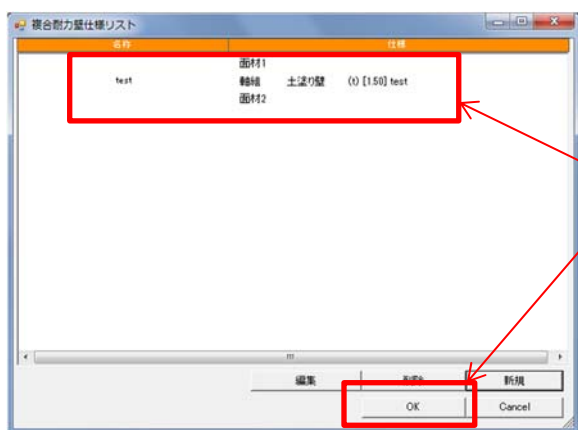
手順 6 : 「複合耐力壁仕様リスト編集」をクリックする。



手順 7 : 複合耐力壁仕様リスト画面で「新規」をクリックする。



手順 8 : 「名称」を入力し、「土塗り壁」を選択後、新規作成した仕様を選択する。その後、「OK」をクリックする。



手順 9: 新規作成した複合耐力壁を確認し、「OK」をクリックする。

## <床仕様・屋根仕様の入力>

### Q2-31. 「床仕様の入力」における入力済の「床（部屋）」の訂正方法を教えてください。

A. 入力済の床（部屋）は下記の手順で一度削除して再度入力してください。

#### 【入力済の「床（部屋）」の訂正手順】

手順1：「選択ツール」をクリックして入力済みの「床（部屋）」を選択する。※1

手順2：「床（部屋）」を選択した状態で削除ボタンをクリックする。※1

手順3：選択した「床（部屋）」が削除されたことを確認する。

手順3：再度、「床（部屋）」を入力する。

※1 『プログラムマニュアル P. 83(2) 建物部位の選択と削除』を参照ください。

なお、入力済みの「床（部屋）」を選択する際には下記の手順のように「床（部屋）」のみを表示することで選択しやすくなります。

#### 【「床（部屋）」の選択手順】

手順1：表示オプションパネルの「床」をクリックする。

手順2：入力エリアに「床（部屋）」のみが表示されていることを確認する。

手順3：訂正する「床（部屋）」を選択する。

※ 『プログラムマニュアル P. 87(6) 建物各部位ごとの入力項目の表示』を参照ください。

### Q2-32. 小屋火打梁の入力方法を教えてください。

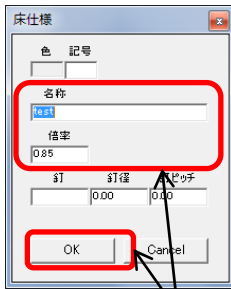
A. 火打構面がある場合は、本プログラムの「R階」で屋根仕様と合わせて火打仕様を重ねて入力してください。火打構面の倍率が加算され、R階の平均床倍率が向上して低減係数 $F_e$ が上がる可能性があります。屋根構面と火打構面の仕様を一度に入力したい場合は、下記のように屋根構面と火打構面の耐力を足し合わせた床仕様を新規に作成して入力してください。

The image shows two screenshots from a software application. The top screenshot shows the 'Option' menu with 'Bed Specification List' selected. The bottom screenshot shows the 'Bed Specification List' dialog box with the 'New' button highlighted.

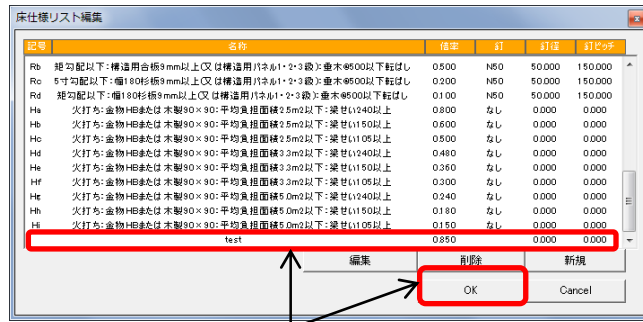
① 「オプション」から「床仕様リスト」を選択する。

記号	名称	倍率	訂	訂係	訂比率
?	吹き抜け	0.000	-	0.000	0.000
?	不明な床	0.000	-	0.000	0.000
Fa	12mm合板薄し込み根太φ340	2.000	N50φ150	2.750	150.000
Fb	12mm合板半次ぎ根太φ340	1.600	N50φ150	2.750	150.000
Fc	12mm合板軽ばし根太φ340	1.000	N50φ150	2.750	150.000
Fd	12mm合板薄し込み根太φ500	1.400	N50φ150	2.750	150.000
Fe	12mm合板半次ぎ根太φ500	1.120	N50φ150	2.750	150.000
Ff	12mm合板軽ばし根太φ500	0.700	N50φ150	2.750	150.000
Fg	24mm合板四角打ち	3.000	N75φ150	2.750	150.000
Fh	24mm合板引の字打ち	1.200	N75φ150	2.750	150.000
Fi	12mmOSB薄し込み根太φ340	2.000	N50φ150	2.750	150.000
Fj	12mmOSB半次ぎ根太φ340	1.600	N50φ150	2.750	150.000
Fk	12mmOSB軽ばし根太φ340	1.000	N50φ150	2.750	150.000

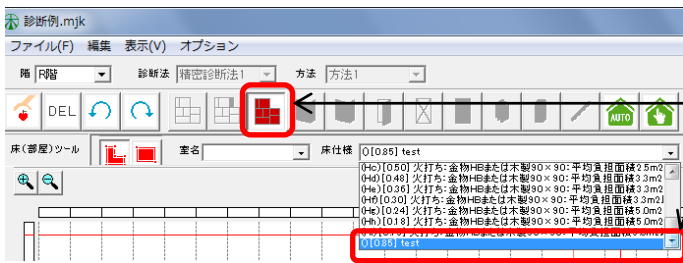
② 「新規」を選択する。



③「名称」「倍率」を入力し「OK」を選択する。



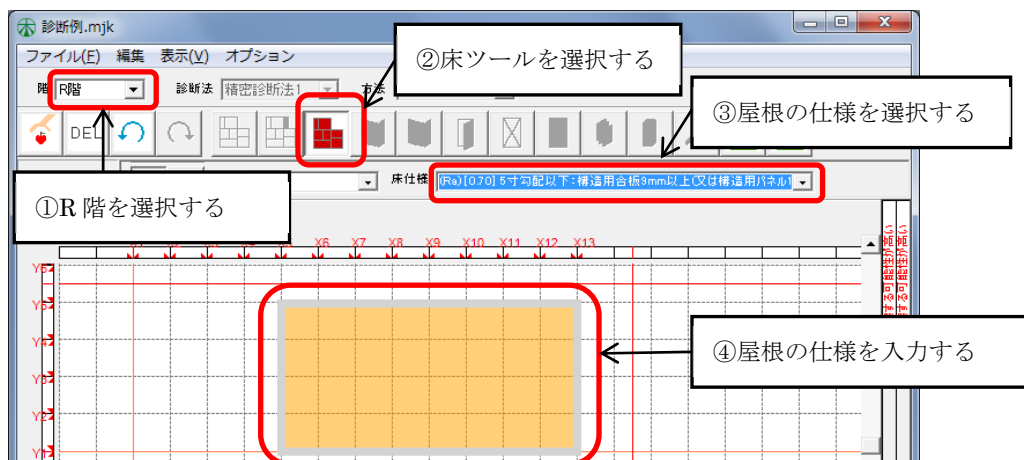
④新規作成した仕様が追加されていることを確認して「OK」を選択する。



⑤床(部屋)ツールを選択して新規作成した仕様を選択し床仕様を入力する。

**Q2-33. 精密診断法1において床及び屋根仕様の入力に要求するメッセージが発生して診断表を印刷できない。**

A. 上記現象は「R階」に屋根構面の仕様を未入力の場合に発生しますので、「R階」に屋根構面の仕様が入力されていることを確認してください。屋根仕様を入力するには「建物部位入力画面」の「階の選択」欄で「R階」を選択し、屋根入力後に「床(部屋)ツールボタン」をクリックしてR階に屋根に重ねるようにして屋根構面の仕様を入力してください。操作画面はプログラムマニュアルP50、61、62、また付属資料P.30~32を参照ください。



①R階を選択する

②床ツールを選択する

③屋根の仕様を選択する

④屋根の仕様を入力する

**Q2-34. 火打構面の床を重ねて入力した後はその内容の確認および変更はできないのでしょうか。空で入力し取り消して再入力し、出力で確認するしかないのでしょうか。**

A. 火打構面の床を重ねて入力した場合、別ウィンドウなどで入力している床の確認はできません。お手数ではありますが診断表にて確認ください。

**Q2-35. 床や火打ち構面の表示が見えない。**

A. 表示オプションパネルで床をクリックすることで床のみを表示することができます。

**Q2-36. 屋根構面の仕様と屋根の入力について。**

A. 屋根構面の仕様と屋根の入力は別のツールでそれぞれ行います。R階を選択後、屋根構面の仕様を床ツールボタンを用いて入力し、その後、手動屋根生成ツールボタンを用いて入力します。また、屋根構面の仕様と屋根は、それぞれを表示・非表示に切り替えて個別に選択することができます。

**Q2-37. 剛性が確認できない場合の床仕様には何を選択しますか。**

A. 「不明な床」としてください。「不明な床」で入力すると耐力ゼロで計算するため、安全側です。

**Q2-38. 吹き抜け部は床仕様を入力しないでよいか。また、吹き抜け部周囲の腰壁については開口部をどのように入力すればよいか。**

A. 吹き抜け部分に床仕様を入力しない方法でOKです。吹き抜けの周囲が腰壁のみの場合は開口部を未入力のままとするのが妥当です。



## ＜屋根の入力＞

### Q2-39. 精密診断法1における屋根の入力について。

- A. 特殊な形状の屋根を入力するには、「建物部位入力画面」の「階の選択」欄で「R階」を選択し手動屋根生成ツールを用いて手動で屋根を入力してください。操作画面は付属資料 P. 36 を参照ください。

### Q2-40. 屋根を2階画面に入力した場合に屋根生成メッセージが発生する。

- A. 2階建ての場合、屋根は、2階画面で1階下屋の屋根を示します。R階で2階屋根を入力してください。

### Q2-41. 屋根入力の際に他部位の表示が邪魔になり入力できないことがある。

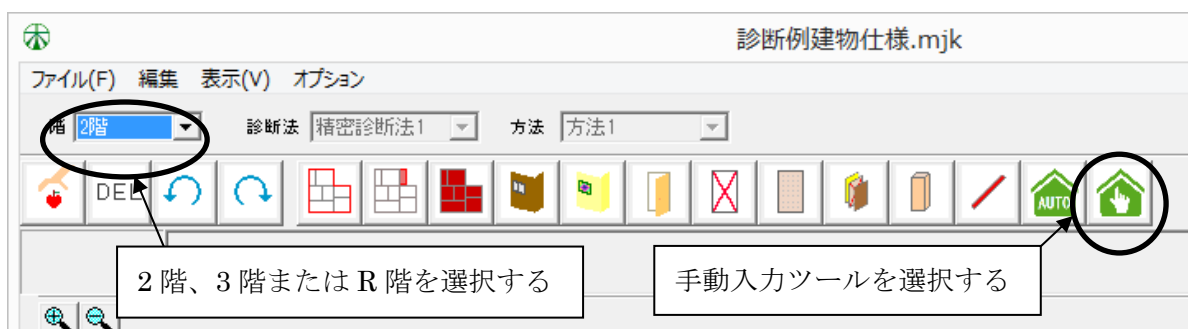
- A. 表示したい項目だけを表示・編集することが可能です。詳細はプログラムマニュアルの P. 87 に記載されていますので参照ください。

### Q2-42. 屋根の選択項目に片流れ屋根がないがどのようにすればよいのですか？

- A. 本プログラムでは片流れ屋根は自動生成できないため対象外となります。ただし手動屋根ツールで屋根を入力することができるため重量を考慮して入力すれば必要耐力を算定することが可能です。

### Q2-43. 屋根の手動入力が選択できない。

- A. 屋根は選択している階の床レベルに入力するため1階を選択している場合には、屋根の手動入力ツールが選択できないようになります。そのため、2階、3階またはR階を選択して屋根の手動入力ツールを選択してください。



### Q2-44. 2階の屋根が自動生成されない。

- A. 屋根の自動生成については建物形状によって自動生成されない場合があります。自動生成できない旨が表示された場合は手動で屋根形状を入力してください。屋根の手動入力方法については付属資料の「手動屋根生成ツールボタンを用いて生成する方法」を参照ください。

**Q2-45. 一般診断法において、荷重の異なる屋根が混在している場合はどのように入力するか教えてください。**

A. 一般診断法では屋根重量を一律に決めますので、軽い屋根と重い屋根が混在する場合、重い屋根で診断すれば安全側の診断になります。

**Q2-46. 屋根の手動入力後、エラーが発生して操作できなくなる。**

A. 上記現象の原因は直前に入力した床や屋根である可能性が高いと思われます。そのため、まずは直前に入力した床や屋根を選択・削除してください。床や屋根を選択・削除することが困難である場合には、床や屋根だけを表示することで選択・削除が容易になります。

## ＜付属架構の入力＞

### Q2-47. バルコニーの入力方法を教えてください。

A. バルコニーの入力は下記のように入力してください。

手順 1：診断仕様入力画面において「2 階建て」もしくは「3 階建て」を選択する（平屋でバルコニーは入力できません）。

手順 2：建物部位入力画面の「2 階」もしくは「3 階」を選択している場合に選択枠からバルコニーを選択する。

手順 3：入力エリアにバルコニーを入力する。

### Q2-48. 外部階段および柱付バルコニーの入力方法を教えてください。

A. 外部階段はプログラムマニュアル P. 138 の入力方法を参照ください。柱付バルコニーについてはプログラムマニュアル P. 73 に記載のように本プログラムでは屋根付きバルコニーを適用対象外としています。そのため、付属架構とはせず建物本体の一部であるものとしてバルコニーを外壁線の内側になるように外壁線を入力してください。

### Q2-49. 一般的なバルコニー（屋根がなく手すり壁があるバルコニー）は、付属架構として入力できるか。

A. バルコニーは、バルコニーの重量に算入すべき屋根が無い場合は付属架構のバルコニーの適用範囲内としていますが、手すり壁部の重量が大きい場合は、バルコニー部分を含んで外壁線を入力することで床重量と壁重量が算定され安全側になります。

## ＜柱脚柱頭接合部・基礎形式の入力＞

### Q2-50. 柱個別に柱接合部仕様 I～IVを設定する方法を教えてください。

- A. 柱接合部仕様 I～IVは柱を入力後に個別に変更することができます。建物部位入力画面で柱を選択し、情報パネル上の選択欄で変更することができます。プログラムマニュアル P. 157 の説明を参照ください。

### Q2-51. 部分的に基礎形式を変更する方法を教えてください。

- A. 精密診断法 1 においては柱情報パネルで柱ごとに直下の基礎形式を部分的に変更することができます。一般診断法においては一律に設定するため部分的に変更することができません。そのため精密診断法 1 で部分的に変更してください。なお、基礎の補強によって基礎ランクを上げる場合は通りごとの補強としてください。詳細はプログラムマニュアルの P. 160、161 を参照ください。

### Q2-52. 基礎形式はどのように計算に適用されますか。

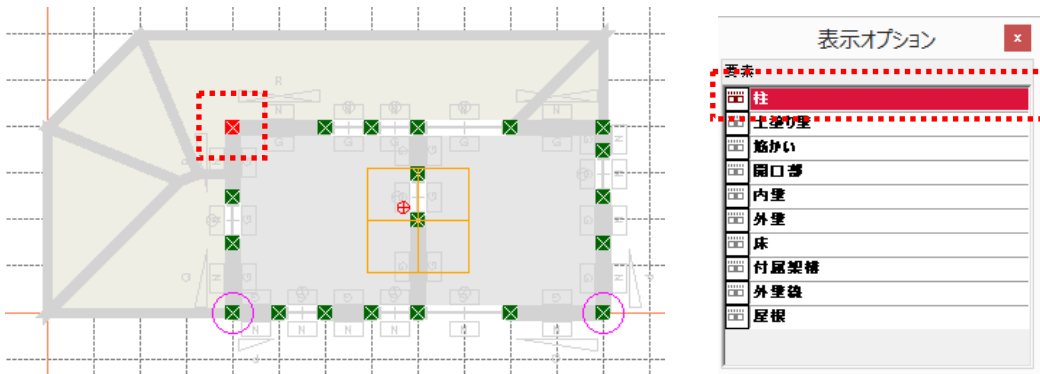
- A. 一般診断法の場合は、建物仕様入力画面における基礎形式の選択が全ての柱に適用されます。  
精密診断法 1 の場合は、柱の情報パネルにおける基礎形式の選択が柱毎に適用されます。プログラムマニュアル P. 160、161 を参照ください。

### Q2-53. 基礎を補強するのですべてを I に変えたいがどう操作すればよいか。

- A. 一般診断法においては建物仕様入力画面の基礎形式の選択を変更してください。  
精密診断法 1 においては、柱を個別に選択するか全ての柱を囲んで選択し、情報パネル上で基礎形式を変更してください。

### Q2-54. 接合部の仕様と通し柱への変更方法を教えてください。

- A. 建物部位入力画面で柱を選択し、情報パネルで変更します。なお、表示オプションの「柱」をクリックすると柱のみを選択できるように表示することができます。



情報パネルでは仕様「通」にチェックを入れ、接合部「柱接合部仕様」を選択してください。

情報

選択された図形: 柱

概要 N値

仕様

管柱  通

樹種 大杉

小径 105 mm

座標

X 3640 mm

Y 3640 mm

接合部

柱接合部仕様: 接合部Ⅳ

N値計算用接合部仕様(参考):

柱頭 強ぼそ差し

柱脚 強ぼそ差し

劣化程度: 砂劣化が認められない

**Q2-55. 柱の接合部低減係数の算定における基礎形式Ⅲの選択方法を教えてください。**

- A. 基礎形式Ⅲの選択方法は、一般診断法の場合は、「建物仕様入力」画面の「地盤・地形・基礎」で選択する「基礎形式」において「玉石基礎-足固めなし」または「無筋コンクリート基礎ひび割れあり」または「その他の基礎」を選択します。一般診断法においては、「建物仕様入力」画面における基礎形式の選択が、全ての柱の接合部低減係数の算定に一律に適用されます。精密診断法1の場合は、柱の「情報パネル」の「建物仕様の入力」の「地盤・地形・基礎」で選択する「基礎形式」において「玉石基礎-足固めなし」または「無筋コンクリート基礎ひび割れあり」または「その他の基礎」を選択します。精密診断法1においては、柱の「情報パネル」の基礎形式の選択が、各柱の接合部低減係数の算定に個別に適用されます。

## <劣化度の入力>

Q2-56. 一般診断法において耐震補強後の診断で劣化度 0.9 を適用する方法を教えてください。

- A. 診断仕様入力画面で「補強後」を選択し、建物仕様入力画面で「補修ボタン」を選択してください。

Q2-57. 一般診断法で老朽度チェックシートの項目が入力できない。または老朽度チェックシートの項目がグレー表示になり入力の要求画面が発生する。

- A. 老朽度チェックシートにおいて「劣化部位」の選択が未了である可能性があります。本プログラムでは、「補強前」において「存在部位」にチェックを入れた場合、劣化部位の選択を要求する仕様となっています。下記の手順 1～5 の操作をお試しください。

手順 1：保存データを開く

手順 2：診断仕様入力画面で「補強前」を選択する

手順 3：「劣化部位」を入力する

手順 4：診断仕様入力画面で「補強後」を選択する

手順 5：「建物部位入力画面」に進む

Q2-58. 一般診断法の劣化度の「補修」の選択について。

- A. 劣化部位の「補修」は、下記操作 1～6 のように「補強前」で「劣化」を選択していた場合に、「補強後」にその劣化部位において選択できるようになります。

操作 1: 診断仕様入力画面で「補強前」を選択する

建物仕様入力画面(一般診断法)

建物概要 | グリッド・高さ | 地盤・地形・基礎 | 各種係数 | 各部の仕様 | 劣化度判定(必須) | 診断者 |

部位	材料、部材等	劣化事象	存在部位	劣化部位		
				補強前	補強後	
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
	瓦、スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
橋	軒・呼び橋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
	縦橋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
外壁仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こげ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	<input checked="" type="checkbox"/>	劣化		
	窯業系サイディング	こげ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
	モルタル	こげ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
バルコニー	露出した躯体		<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
	手すり壁	木製板、合板	水浸み痕、こげ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	
		窯業系サイディング	こげ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	
		外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、剥離、シール切れ、剥落がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	
	床排水	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	<input type="checkbox"/>			
内壁	一般室	内壁、窓下	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
	浴室	タイル	目地の亀裂、タイルの割れがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	
タイル以外		水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
床	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		
		廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	
	床下	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全		

劣化度による低減係数D (1 - 劣化点数 / 存在点数) 0.809

存在点数 21.00 劣化点数 4.00

操作 2: 劣化部位で「劣化」を選択する

操作 3: 「戻る」を選択する

正していない場合はチェックを外して下さい。

戻る 建物仕様を保存して終了 キャンセル 建物部位入力画面へ

診断仕様入力画面

◆一般項目

建物名称 診断例

建物所在地 \*\*県\*\*市

建物用途 住宅

◆建物構造

階数(必須) 2階

建物構造(必須) 在来軸組構法

混構造の有無(必須)  なし  あり

混構造の場合の1階構造(必須)

◆診断法(必須)

一般診断法  精密診断法1

◆補強の前後(必須)

補強前  補強後

操作 4: 診断仕様入力画面で補強後を選択する

保存して終了 キャンセル 建物仕様入力画面へ

操作 5: 「建物仕様入力画面へ」を選択する

建物仕様入力画面(一般診断法)

建物概要 | グリッド・高さ | 地盤・地形・基礎 | 各種係数 | 各部の仕様 | 老朽度チェックシート(必須) | 診断者

部位	材料、部材等	劣化事象	存在部位	劣化部位	
				補強前	補強後
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	健全
	瓦、スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	健全
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	健全
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	健全
外壁仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こげ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	<input checked="" type="checkbox"/>	劣化	補修
	窯業系サイディング	こげ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/>	劣化	補修
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/>	劣化	補修
	モルタル	こげ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	健全
露出した躯体		水浸み痕、こげ、腐朽、蟻道、蟻害がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	健全
バルコニー	手すり壁	木製板、合板	水浸み痕、こげ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全
		窯業系サイディング	こげ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全
	外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	<input type="checkbox"/>	健全	健全
内壁	一般室	内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全
	浴室	タイル	目地の亀裂、タイルの割れがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全
		タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全
床	床面	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全
		廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全
	床下	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	<input checked="" type="checkbox"/>	健全	健全

劣化度による低減係数D (1 - 劣化点数/存在点数) | 1.000

存在点数 | 21.00

劣化点数 | 0.00

 存在部位においては、調査していない場合または存在していない場合はチェックを外して下さい。

戻る | 建物仕様を保存して終了 | キャンセル | 建物部位入力画面へ

操作 6: 補強後の劣化部位で「補修」を選択する

Q2-59. 精密診断法1における劣化度の入力方法を教えてください。

A. 精密診断法1においてはプログラムマニュアルP. 65、68に記載のように各耐力要素に劣化の程度を設定してください。



## <画面表示>

### Q2-60. 情報パネルが表示されていないので表示したい。

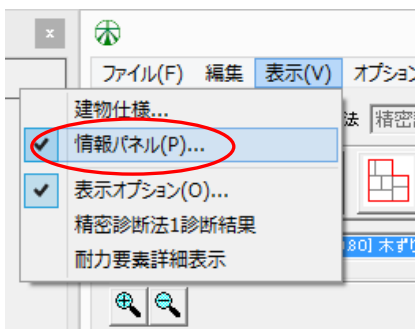
- A. 情報パネルを表示するためには、画面上「表示」メニューの「情報パネル」をクリックしてください。

### Q2-61. 外壁線等の建物部位の情報を情報パネルで表示したい。

- A. 情報パネルを表示した状態で外壁等を選択すると情報が表示されます。

### Q2-62. 情報パネルが出ないことがある。

- A. 表示メニューの「情報パネル」をクリックすることで表示することができます。

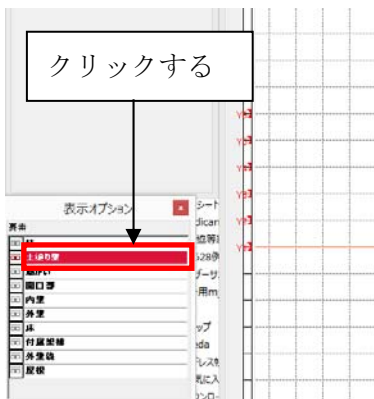


### Q2-63. 建物部位入力画面の入力エリアで各壁面に数値が表示され、部位の選択ができない。

- A. 建物部位入力画面の「表示」の「耐力要素詳細表示」にチェックが入っていると見えます。「耐力要素詳細表示」をクリックすることでチェックが外れて部位の選択ができるようになります。

### Q2-64. 土塗壁のみを表示する方法を教えてください。

- A. 表示オプションの「土塗り壁」をクリックすることで土塗壁のみを表示し選択することができます。



**Q2-65. モニタ上で診断結果表示の一部が表示されない。**

A. PC のコントロールパネルから文字設定を小に設定してください。

## ＜保存ファイル＞

### Q2-66. 保存データを開く際にエラーメッセージが発生する現象について。

A. 上記の現象は、下記原因による可能性があります。

- ドキュメントフォルダに「(一社)日本木造住宅産業協会」フォルダが存在しないこと  
下記の手順をお試しください。

手順1: PCの「OS(C:)」→「ProgramFiles」→「(一社)日本木造住宅産業協会」フォルダ  
をコピーする

手順2: 手順1でコピーした「(一社)日本木造住宅産業協会」フォルダをドキュメントフ  
ォルダにペーストする

- windows7のユーザーアカウント制御が影響している

下記の手順をお試しください。

手順1: 耐震診断プログラムのアイコン上で右クリックして「管理者として実行」をクリッ  
クする。


### Q2-67. 「一般診断法」で作成したデータを「精密診断法1」に変更して使用することは可能ですか。また、同様に「補強前」を「補強後」に、「在来軸組構法」を「伝統構法」に変更して使用することは可能ですか。

A. 「一般診断法」で作成したデータを「精密診断法1」に、また「補強前」を「補強後」に、「在来軸組構法」を「伝統構法」に変更して使用することは可能です。それぞれの項目について「診断仕様入力画面」で変更してください。

## <印刷>

**Q2-68. 一般診断法で、注意事項を記入しているにもかかわらず診断表を印刷することができない。**

A. 下記の操作をお試してください。

操作：診断結果画面において、注意事項を記入後、下図の  をクリックして画面を閉じた後に印刷する。



**Q2-69. 診断結果を PDF 等に変換する方法について。**

A. 通常のプリンタ印刷と同様に診断表を PDF に印刷することができます。

Adobe Acrobat もしくは PDF 印刷のためのフリーソフトを PC にインストールし、「印刷」を選択すると通常のプリンタに並んで PDF 印刷のためのプリンタ名が表示されます。そのプリンタ名を選択すると診断表を PDF に印刷することができます。

**Q2-70. 診断表を印刷すると文字化けする現象について。**

A. 現象の原因は、お使いのプリンタもしくは PC の設定であると思われます。別のプリンタを使用するか、もしくは PDF 印刷をお試してください。

**Q2-71. ハッチング等の入力方法を教えてください。**

A. ハッチング等をプログラム側から描画することはできません。診断表に手書き等でご対応ください。

**Q2-72. 診断表を印刷するとエラーメッセージが発生して一部の診断表が印刷できない現象が発生することがある。**

A. 床の入力が原因である可能性があるため、各階で床を削除後、再入力し印刷を再度お試しください。

**Q2-73. 「柱配置図・N値計算書（一般）」「柱配置図・N値計算書（精密）」の壁構成表記が全てAになっている。**

A. 壁構成の表記は一般診断法診断表または精密診断法1診断表の壁配置図の表記を参照ください。